

# 拡大する中国の建築用木材消費

## —試される日本材の輸出価格競争力—

研究員 安藤範親

中国の木材消費量は経済成長に伴い増加を続けており、今や中国は主要な輸入国となっている。FAO(国連食糧農業機関)によると、2013年の世界貿易に占める中国の木材輸入の割合は丸太が34%、製材品が20%といずれも世界第1位であり、08年と比べて輸入量は丸太が1.4倍に、製材品が3.3倍に拡大している。

これまで日中間の木材貿易は少なかったが、足元では円安に伴い日本からのスギ丸太輸出が急速に伸びている。とはいえ、中国の輸入丸太に占める日本材の割合はまだ1%に満たない。今後、日本からの輸出を拡大するためには、隣国であり最大級の消費国である中国の木材利用の動向は重要である。

そこで、中国における木材利用の実態を把握するため、14年12月に北京市と上海市周辺部を訪問し、木材加工業者や内装用品市場などの現地調査を実施した。以下では、中国の木材利用動向を確認したうえで、訪問先での聞き取り結果について紹介し、日本材の輸出の可能性についても考えてみたい。

### 1 拡大する建築用の木材消費

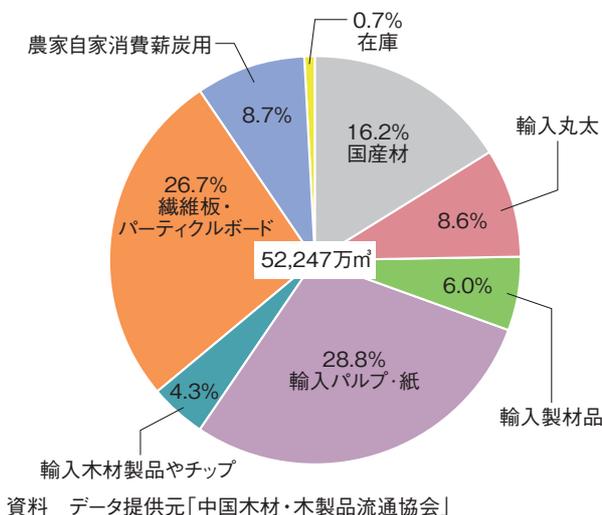
FAOの「世界森林資源評価2010」によると、10年時点で中国の森林面積は国土の21.5%にあたる2億686万haで、世界の森林面積の5.1% (世界第5位)に相当する。そのうち、人工林面積は7,716万ha(世界第1位)であり、木材需要の急増に対応するために早生樹が植栽されている。華北平原(河北省・河南省・山東省等)ではポプラ、南方沿岸部(広東省・広西チワン族自治区等)ではユーカリの造林が進み、いずれも木質ボード・パルプ・チップなどの原料になっている。また、長江中下流域以南(湖南省、江西省、福建省等)では、スギ類(コウヨウザン)やマツ類の造林が進んでいる。

13年における中国の木材供給量の内訳をみると(第1図)、約5.2億万m<sup>3</sup>のうち約半分が輸入木材・木製品である。輸入丸太のうち針葉樹が7割を占め、その内訳はオーストラリア・ニュージーランド(以下「NZ」)から40%、ロシアから30%、アメリカ・カナダから25%となっている。輸入製材品についても針葉樹が7割を占め、その内訳はアメリカ・カナダから45%、ロシアから40%、残りは欧州となっている。なお、日本のスギは強度の低い低質材としてNZ材と競合する。

同じく13年における木材消費量の内訳をみると(第1表)、建築用が最も多く、次いで製紙用、輸出用の順となっている。08年と比べると建築用の消費がもっとも拡大している。その背景としては、不動産販売面積と新規着工面積の拡大が挙げられる(第2図)。

建築用の内訳は国家林業局発行の『中国林業発展報告』に記載がなく把握できないが、中国の住宅は日本の様な木造住宅ではなく、コンクリート造のマンションが多いため、木材利用は土木・建築資材(コンクリート型枠等)

第1図 中国の木材供給量内訳(2013年)



や内装用材の割合が高い。

## 2 多様な顧客ニーズに対応する市場

中国の住宅は、通常スケルトン(内装なし)で販売されるため、内装用品市場が発達している。我々は、浙江省のフローリング業や河北省の化粧板業、天津市の木材製品・内装用品の総合市場などを視察したが、特に内装用品については多種多様かつ価格帯別の商品が充実していた。各社とも購買層等のターゲットを絞った事業展開よりも、多様な顧客ニーズに対応した商品展開を進めている。

内装用品市場では、延べ床面積30万㎡の中に多数のテナントが入っていた。デザインは欧米風ないし中国風で、年配者は濃い色の木材、若者は白い色の木材を好む。

都市周辺部の調査先における木材加工業の作業員の人件費は、いずれも月給手取りが3千～4千元であった(6万～8万円、1元=20円。技術者は6千元)。加えて、宿舍や賄い付きなど福利厚生が充実している企業もあった。この金額は、上海・北京の都市部(ホテル従業員や飲食店、衣料品店等)と変わらない。労働者確保のためには、都市部と同等の賃金設定が必要になっている。

木材加工産業は、フローリング業が集積する浙江省や木質ボード業が集まる河北省のように、上海や北京等の都市の周辺部に位置するため人件費の高騰が懸念される。今後も国内生産を続けるためには、機械化による労働コストの削減が考えられよう。賃金の低い東南アジアなどへの工場移転については、政治リスクが大きく難しいとの意見が多かった。

## 3 日本材の輸出の可能性

中国の人工林面積は拡大傾向にあるものの、過去の森林資源の劣化に伴う水害などから森林資源は保護されており、中国国内の木材供給量の増大を見込む企業はなかった。したがって、中国は今後も大量の木材輸入を要すると思われる。

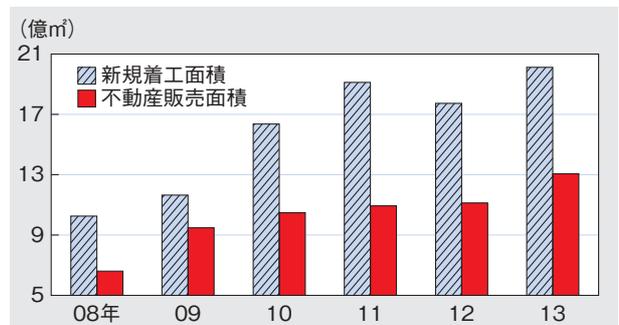
第1表 中国の木材消費量内訳

(単位 万㎡、%)

内訳	08年	13年	増減	割合(13年)
建築用(構造、内装材等)	8,288	16,284	96.5	32.1
製紙用	13,015	15,031	15.5	29.6
輸出用	5,834	9,174	57.2	18.1
家具用	4,478	6,101	36.2	12.0
農業用および自家消費薪材	3,671	1,624	△55.7	3.2
石炭業用	1,042	1,032	△0.9	2.0
在庫およびその他工業用	818	1,537	87.9	3.0
合計	37,145	50,783	36.7	100.0

資料 データ提供元「中国木材・木製品流通協会」  
国家林业局編(2009)『中国林業発展報告(2009)』中国林業出版社

第2図 不動産販売面積と新規着工面積の推移



資料 中国国家统计局、CEICデータ  
(注) 不動産新規着工面積は、住宅のほか商業用オフィス等を含む。住宅が約7割を占める。

一方、円安で日本材の価格競争力が高まっており、調査先の木材加工業者も日本材丸太への関心が強かった。14年11月の中国の輸入丸太(針葉樹)の港着価格(CIF)は、NZ材が135ドル/㎡、ロシア材が130ドル/㎡、日本材が130ドル/㎡であった。日本からの保険料を除く輸出価格を14千円/㎡(丸太9千円、船積+運賃等5千円)とすると、円安下では輸出も採算が見込める。

しかし、NZ材や北米材、欧州材が大部分を占める中国輸入市場において日本材がシェアを拡大するためには、中国企業との関係構築や展示会でのPR活動など日本材の売り込み活動が必要であろう。

### <参考文献>

・森林総合研究所(2010)『中国の森林・林業・木材産業』  
(株)日本林業調査会

(あんど う のりちか)